

佐野市の現状に関する SWOT分析結果

(庁内関係各課版)

令和5年7月末 集計

佐野市気候変動対策課

《分析内容》

1 内部環境

- 1-1 佐野市の強み (Strength)
(活かせる資源・他団体にはない強み等)
- 1-2 佐野市の弱み (Weakness)
(克服すべき弱み・他団体に劣るもの等)

2 外部環境

- 2-1 佐野市に有利な機会 (Opportunity)
(活用できる機会・成長できる機会)
- 2-2 佐野市に不利な脅威 (Threat)
(取り除くべき脅威・守るべき脅威)

3 キーワード分析

- 3-1 ゼロカーボンシティさの実現に向けたキーワードは？

4 その他参考意見等

- 4-1 ゼロカーボンシティさの実現に向けた各分野の意見
- 4-2 ゼロカーボンシティさの実現に向けた各分野からの提案

佐野市の現状分析についてのSWOT分析

各所属の意見集約の結果概要(主要な意見7選)

	プラス 要因	マイナス 要因
内部環境 ↓ 佐野市の現状	佐野市の強み (Strength) (活かせる資源・他団体にはない強み等)	佐野市の弱み (Weakness) (克服すべき弱み・他団体に劣るもの等)
	<ul style="list-style-type: none">・山間部の豊かな自然(森林)資源・日照時間の長さ(太陽光発電の優位性)・日本屈指の鉱物資源と採掘量・交通の利便性(バスターミナル・高速交通網等)・アウトレット、厄除大師等の観光資源・ご当地グルメ(佐野ラーメン、餃子、梨、桃等)・豊富な水資源(地下水、湧水等)	<ul style="list-style-type: none">・公共交通網の不足(電車・バスが不便)・全国有数の暑さ・人口減少、少子高齢化の進行・空き家、空き地が多い・市内森林の不整備・鳥獣被害の増加・車社会
外部環境 ↓ 佐野市を取り巻く社会状況	佐野市に有利な機会 (Opportunity) (活用できる機会・成長できる機会)	佐野市に不利な脅威 (Threat) (取り除くべき脅威・守るべき脅威)
	<ul style="list-style-type: none">・移住・定住のニーズの高まり・首都圏から短時間で来市できる・新型コロナウイルスの5類感染症移行・DX、GX推進環境の進展・電気料金・燃料費高騰による再エネ・省エネへの関心の高まり・CO2削減のイノベーション・地球環境やりサイクルに関する意識向上	<ul style="list-style-type: none">・異常気象による想定外の災害の発生・山を削ったソーラーパネル増加・人口減少、高齢化問題・遊休農地、林野の拡大・気温の上昇、猛暑日の増加・空き家、空き地問題・物価上昇、住宅関連購入費の高騰

《あなたの考える「ゼロカーボンシティさの」実現に向けたキーワードは??》

森林の再生・活用	再エネの地産地消
脱クルマ社会	循環型社会の形成

佐野市の現状分析についてのアンケート結果

1-1 内部環境 ①

【佐野市の強み (Strength)】 (活かせる資源・他団体にはない強み等)

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
<input type="checkbox"/>	・日照時間が長い (太陽光の優位性)					
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・田中正造翁の生誕地
				<input type="checkbox"/>		・森林がある
<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・山間部の豊かな自然と鉱物資源
<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・広大な平地を利用した多種多様な農業
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・知名度の高いご当地グルメの存在 (佐野ラーメン、餃子等)
		<input type="checkbox"/>				・交通の利便性 (バスターミナル・北関道 (出流原IC田沼IC) 東北道 (佐野IC))
<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>			・梨や桃も含め美味しい食べ物が豊富
	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・佐野厄除け大師
	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・国際クリケット場
					<input type="checkbox"/>	・さのまるの知名度
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・冬のレジャーも楽しめる
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・森林面積が市域の6割。きちんと整備されていればCO2削減に大いに役立つ。
<input type="checkbox"/>	・東日本台風被害の教訓					
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・豊かな自然環境
					<input type="checkbox"/>	・湧水による水の確保
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	・高速道路ICの保有数
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・東武線と両毛線を有する
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・高速バスターミナルを有する
	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・アウトレットによる誘客
	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・佐野ラーメンというブランド
<input type="checkbox"/>	・行政と地域のネットワークの構築					
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・森林面積が60%以上を占める。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・鉱山資源が豊富である。
	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・水資源 (地下水等) が豊富である。
<input type="checkbox"/>	・緩やかに都市と田舎が存在する。					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・高速道路や新都市バスターミナルを活用することで、都内へのアクセスがしやすいことから、市外からの移住の関心が高い。
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・日照時間が長いことから、ソーラー施設が多い。
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・低山ハイキングのコースが多い。
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・北部は豊富な森林に囲まれている
	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・地下水、河川等豊かな水源をもつ (佐野市の水道の原水はすべて地下水)
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・ZEH化、省エネ家電導入に補助制度がある
	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・多くの観光資源に恵まれている
	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・全国的にも珍しい専用クリケット場がある
<input type="checkbox"/>					<input type="checkbox"/>	・鉱物が豊富 (石灰、ドロマイト、砕石)
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・大型ショッピングセンターがある
	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・ブランド力 (さのまる、佐野らーめん、イモフライ等)

【佐野市の強み (Strength)】 (活かせる資源・他団体にはない強み等)

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
○	○				○	・伝統文化 (天明鋳物)
	○				○	・歴史 (唐沢城)
			○	○	○	・豊かな自然など環境が良い
	○	○	○		○	・車でアクセス利便性 (高速道路IC設置数)
○	○	○			○	・インランドポートの活用
○	○	○	○	○	○	・日照時間が比較的長い
	○				○	・佐野ラーメン、アウトレット、佐野厄除け大師等の観光資源
	○				○	・さのまるのブランド力
	○		○	○	○	・名水百選に選定された出流原の水資源
○	○				○	・石灰やドロマイトなどの鉱物資源が豊富
○				○	○	・市の大半が山間地域であり、自然豊か
	○	○	○		○	・北関東道、東北道が通り、東京の都市部及び北関東の交通の要衝
	○	○			○	・首都圏民のレジャー先として「ちょうどいい距離」
○	○	○			○	・インランドポートを活用した物流拠点の形成
○	○	○	○	○	○	・地震基盤が浅く地震に強い
○	○	○			○	・ICが4つある
	○			○	○	・中山間地(奥佐野)の森林の景観、水・湧き水、生態系、山の幸
	○				○	・立地(関東、東北地方等アクセス)を活かしたPR等のしやすさ
	○		○	○	○	・風水害等の被害が少ない
			○		○	・水道水のおいしさ
	○			○	○	・自然と商業施設と工業の共存
	○				○	・「さのまる」「佐野ラーメン」など他県にも知名度のある観光資源
	○				○	・みかもグリーンセンターが、熱分解流動床式ガス化熔融炉を採用している
○	○				○	・地場産業を中心に、中小下請企業の割合が高く、産業基盤が確立されている
	○				○	・アウトレット、佐野ラーメン、厄除大師の3本の矢による、観光資源が確立されている
	○		○	○	○	・豊富な水資源と、地下水による、美味しい水道水を有する
	○				○	・佐野、田沼、葛生の地域特性を活かした、行政運営がなされている
				○	○	・森林が多い
				○	○	・緑豊かな自然 ⇒豊富な森林
○	○	○	○	○	○	・冬期の晴天率が高く日照時間が長い
	○			○	○	・地下水による豊富な水資源 ⇒おいしい水
				○	○	・伐採適齢期の森林が多い
○	○	○			○	・交通アクセスが良い (高速道路のICが多い)
	○			○	○	・熱心に林業に取り組む市内の林業者が若干いる。
				○	○	・中山間地域の豊かな自然
	○				○	・下水終末処理場がある
	○				○	・地下水が豊富
○	○	○			○	・高速道路IC、国道50号線
				○	○	・山と川がある
○	○	○			○	・高速道路交通網の要衝 (ICが4箇所)
	○				○	・佐野ラーメンの知名度

【佐野市の強み (Strength)】 (活かせる資源・他団体にはない強み等)

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
○	○				○	・ドロマイト産出量日本一
					○	・冬季に吹く強い西風
	○		○		○	・山間部を除く市内は平坦な地形
	○	○			○	・坂が少ないため自転車に乗りやすい
○	○				○	・全国の8割を占めるドロマイト生産量
	○				○	・暑いまちを謳う反面、「宇津野洞窟」で電力消費することなく涼むことができる。
				○	○	・中山間地域（奥佐野）の豊かな資源
	○				○	・アウトレットやラーメンによる観光集客力
○	○				○	・旧市町の特色が残っている（葛生：石灰、田沼：木材、佐野：ラーメン・天明鋳物）
○	○	○			○	・東北道、国道50号、北関東道が交差する交通の要衝
○	○	○			○	・都心や他県からのアクセスが良好
○	○			○	○	・交流人口が多く、生活の利便性が高い南部地域、自然豊かで趣きのある風景を残す北部地域など、多面的な魅力を有する
○	○			○	○	・市内の6割程度が山林。木材としての利用・CO ₂ の吸収源として効果を期待できる
	○	○	○		○	・生活路線バスがある（自家用車に比べCO ₂ 排出量が少ない）
			○		○	・最高気温が高い一方で奥佐野は過ごしやすい
	○				○	・水資源（地下水）が豊富
				○	○	・森林が多い
○	○				○	・鉱産物が多い
○	○	○	○	○	○	・冬の晴天率が高い
○	○	○	○	○	○	・降雪が少ない
	○				○	・豊かな水資源
	○				○	・地下水由来の上水道は水温が安定している
	○				○	・豊富なご当地グルメ
○	○			○	○	・多様なフルーツの産地
	○		○	○	○	・自然豊か
○	○	○	○	○	○	・火山がない
○	○	○			○	・高速道路のアクセスが良好
	○				○	・恵まれた水資源（美味しくて安い水道）
○	○	○	○	○	○	・地震に強い地盤、災害が少ない
	○		○		○	・都会と田舎がちょうど良い
	○				○	・ご当地グルメが充実
○	○	○			○	・2 IC・2 SIC整備による高速道路の利便性
○	○	○			○	・高速バスの乗入れ
○	○	○			○	・都心からのアクセス
○	○	○			○	・南部から北部に縦断する鉄道網
	○				○	・アウトレットや佐野らーめんによる観光集客
	○			○	○	・中山間地域（奥佐野）の森林資源
	○				○	・フルーツラインの桃や梨の知名度向上による観光誘客
	○				○	・国指定史跡唐沢山城跡
	○				○	・佐野厄除け大師

佐野市の現状分析についてのアンケート結果

1-2 内部環境 ②

【佐野市の弱み (Weakness)】 (克服すべき弱み・他団体に劣るもの等)

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
	○				○	・ダムがない (水力の劣位性)
					○	・川の水が冬季に涸れる (小水力の劣位性)
					○	・風が冬季しか吹かない (風力の劣位性)
					○	・温泉がない (地熱の劣位性)
					○	・雪が降らない (雪氷熱の劣位性)
○	○	○	○	○	○	・夏は全国有数の暑さ
○					○	・鉱業によるCO2排出量が多い
				○		・林業従事者の減少
				○		・林業への獣害の増加
○	○	○	○		○	・公共交通が不便
○	○	○	○		○	・こどもの数の減少 (特に南北の格差)
					○	・夏の酷暑による負のイメージ
○	○				○	・廃校の有効活用
	○		○		○	・シャッター商店街
	○				○	・観光資源のつながり
				○	○	・市内森林は、適切な間伐等整備されておらず、本来の機能が発揮できていない。
				○	○	・森林のCO2吸収量の試算がされていないことから差し引きが分からない。
	○		○	○	○	・プラスチックごみリサイクルの遅れ
	○	○	○		○	・充電スタンドの不足
	○	○	○		○	・水素スタンドの不足
				○	○	・大規模太陽光発電の山間部への設置
○	○	○	○	○	○	・人口減少
○	○	○	○	○	○	・少子高齢化
		○	○		○	・公共交通の不足
○	○	○	○	○	○	・国際化への対応
	○		○		○	・地縁団体の行政への依存
○	○	○	○	○	○	・人口減少
	○		○		○	・自治会の運営が困難となっている。
			○		○	・振り込め詐欺の増加
○			○	○	○	・鳥獣被害の増加傾向
○	○	○	○	○	○	・人口の減少
		○	○		○	・自家用車がなければ普通の生活が不便
○	○	○			○	・大型貨物自動車の通行量が多い
	○		○		○	・若い人たちは市街地に移り、中山間地域には高齢者世帯が多くなっている
	○	○			○	・休日の観光・商業施設の渋滞の慢性化
	○				○	・公共施設のZEH化は行われていない
	○		○	○	○	・災害時に孤立する集落がある (大釜、秋山等)
○	○	○	○		○	・公共交通の本数が少ない

【佐野市の弱み (Weakness)】 (克服すべき弱み・他団体に劣るもの等)

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
	○		○		○	空き家が多い
○	○	○	○	○	○	・人口減少
○	○	○	○	○	○	・高齢化率
○	○	○	○	○	○	・求人率
○	○	○	○	○	○	・若年層の流出
○	○	○	○		○	・市内公共交通の整備
○	○	○	○		○	・電車によるアクセス
	○		○		○	・空き家が多い
○	○				○	・大企業がない
○					○	・工業団地が少なく、企業誘致が出来ない
○					○	・国道50号沿線の未開発による集客施設の空洞化
○	○	○	○	○	○	・若者の故郷離れ
○	○	○	○	○	○	・人口減少・高齢化
	○		○		○	・空き家の増加
	○				○	・風力、地熱、水力による発電が困難
○	○	○	○		○	・公共交通網の不便さ,自家用車に頼った交通手段
○	○	○	○		○	・首都圏に直結する鉄道がない。
○	○	○	○		○	・4年制大学がない
○	○	○	○	○	○	・人口減少
○	○	○	○		○	・公共交通機関の不足
	○			○	○	・山肌へのソーラー建設に制限がない
○				○	○	・放置された杉等の植林地
				○	○	・ヤマビル・マダニで魅力激減
				○	○	・外来種を含む生物全体の認識不足
	○			○	○	・溪流魚、キノコ、山菜などが名物になるほど採れない
○					○	・ジビエが放射能により出荷禁止
○	○		○		○	・駅前商店のシャッター街
	○		○		○	・祭りや地域イベント等の活気
				○	○	・鳥獣害被害
○	○	○	○	○	○	・県内他地域に比べ、農業・農村を取り巻く環境が脆弱である（基盤整備の遅れ等）
○	○	○	○		○	・両毛各地に比べ、都心への鉄道アクセスが弱い
○	○	○	○		○	・旧佐野地域のバスなどの公共交通が未発達
○	○				○	・核となるような大企業が少なく、税収、就業先、工業出荷額が低い
	○		○		○	・地域コミュニティ機能が上手く作用出来ていない
		○	○		○	・交通マナーが低く、交通事故発生割合が高い
	○		○		○	・同規模自治体に比べ、病院の数が限られており、安心して医療を受け難い
○	○	○	○	○	○	・過疎化の進行
○					○	・佐野市＝農業というイメージが無い
				○	○	・手入れのされていない森林が多い
				○	○	・森林担当部署の人員が少ない
○	○	○	○	○	○	・少子、高齢化の進行
○	○	○	○	○	○	・中山間地域の過疎化進行

【佐野市の弱み (Weakness)】 (克服すべき弱み・他団体に劣るもの等)

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
○	○				○	・就農や移住に関する支援が少ない
	○		○		○	・個人使用の井戸水の枯渇化
○					○	・耕作放棄地が多い
				○	○	・管理ができていない山が多い
	○		○		○	・老朽化した水道管が多い
○	○	○	○	○	○	・高齢化による地域の活力の衰退
○	○				○	・農地の購入や借りる際のハードルが高い
	○		○		○	・再利用可能な空き家が少ない
	○		○		○	・小学校の統廃合により子育てに向かない
○				○	○	・鳥獣による被害が多い
	○			○	○	・森林組合の体制が弱く、助言を受けにくい
	○			○	○	・専門職（林業職）の職員が少ない
	○				○	・各種政策が計画性に乏しい（十分な検討もされないまま、突発的に政策が決定し、実行される感じがする）
		○	○		○	・車社会
	○		○		○	・ごみ減量やリサイクルに対する意識が低い
	○				○	・自治体としての知名度が低い
○	○	○			○	・石灰、セメントの会社が多い
○					○	・営農面積が少ない
			○		○	・健康寿命が短い
○	○	○	○	○	○	・夏季は全国有数の暑さ
○					○	・農業後継者不足による農地荒廃
				○	○	・ヤマビル増加による里山等の荒廃
	○	○			○	・市内に電気自動車の充電施設が少ない
	○	○			○	・市の公用車に電気自動車が少ない
○					○	・企業が進出を希望するも、受け入れ可能な産業団地がない
	○		○		○	・空き店舗の増加
○	○	○	○	○	○	・地球温暖化による夏の高温
	○	○			○	・観光客向け公共交通が脆弱
	○		○		○	・駅周辺の魅力に乏しい。
○	○	○	○	○	○	・ゼロカーボンに対する意識が希薄
	○	○			○	・高速道路周辺や国道50号沿い等、市南部には交流人口が増加するも、北部まで回遊していない
○	○				○	・市南部に浸水想定区域がある。
○	○	○	○	○	○	・高齢化による人口減少（特に中山間地域）
		○	○		○	・クルマ社会（排気ガスによる大気への影響は否めない）
	○	○			○	・市内の移動が不便
○	○	○	○	○	○	・最高気温が高い
	○		○		○	・空き家の増加
○	○	○	○		○	・鉄道の便の少なさ
○	○	○	○	○	○	・夏の高温
○	○	○	○		○	・二次交通が未発達

【佐野市の弱み (Weakness)】 (克服すべき弱み・他団体に劣るもの等)

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
	○				○	・水力発電所がない。設置する環境がない
	○				○	・地熱発電環境ではない。温泉がない
	○				○	・総面積に対し、平野部が少ない
	○				○	・景勝地が少ない
	○		○		○	・若者に魅力的な職場が少ない
	○		○		○	・子育て世代より高齢者を大切にしている
○	○			○	○	・中山間地域の鳥獣被害
	○	○	○		○	・公共交通の利便性
	○	○	○		○	・田沼駅・葛生駅周辺の未整備
○	○	○	○	○	○	・高齢化による中山間地域の人口減少
	○				○	・佐野駅周辺や市北部への観光客の回遊
○	○	○	○	○	○	・夏季気温の上昇
	○	○			○	・新都市地区自動車流入の増加
○	○	○	○	○	○	・市南部地域の浸水想定広域エリア
○	○	○			○	・都市計画道路・幹線道路の未整備区間
○	○	○	○	○	○	・農林業従事者の高齢化と後継者不足
	○	○	○		○	・電車・バス等公共交通網の不足
	○	○			○	・都心からの自動車でのアクセスはいいが、最終目的地というより経由地の印象が強い
	○				○	・駅前通り（中心部）に活気がない
	○	○	○		○	・車がないと移動が困難
	○				○	・太陽光発電施設の乱立による、景観破壊と山地の保水能力の低下
	○				○	・小中学校の校舎老朽化
	○	○	○		○	・公共交通機関を利用したエコ通勤の実施が難しい
	○	○	○		○	・買い物が郊外の大型店舗に頼っているため、自動車の利用が多い
	○	○	○		○	・交通手段の自動車への依存
	○		○		○	・人口減による学校の減少
○	○	○	○	○	○	・人口減少（移住の魅力の無さ）
	○		○		○	・空き家の増加
○	○	○	○	○	○	・暑い
	○	○	○		○	・市内の交通が不便(バス等)
○	○				○	・中小企業が多い（大企業の立地少ない）
	○	○			○	・車社会。どこへ行くにも自家用車を使う
○	○				○	・分譲可能な産業団地がない
	○	○			○	・排ガス規制の古いディーゼル車が多く走っている
	○			○	○	・市内の木材を捌ける材木市場がない
○	○	○	○	○	○	・暑い街として敬遠される可能性がある
	○	○			○	・電車・バス等の公共交通網不足
	○			○	○	・間伐材が放置されている
○				○	○	・農林業従事者の高齢化と後継者不足
	○			○	○	・土砂災害警戒区域が多い
	○				○	・公共施設等が分散している

佐野市の現状分析についてのアンケート結果

2-1 外部環境 ①

【佐野市に有利な機会 (Opportunity)】 (活用できる機会・成長できる機会)

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
<input type="checkbox"/>	・スマートーフシティの推進					
	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・遺跡や文化財への関心の高まり
<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・住友大阪セメントでバイオマスを活用したプラントが稼働し、石炭の節減に努めている
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・リサイクル諸法の制定
<input type="checkbox"/>	・地球環境やリサイクルに関する意識の向上					
<input type="checkbox"/>	・環境に関する教育機会の増加					
	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・「暑い」ことによる知名度の向上
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・コロナを通して、働き方に変化が生じ、遠隔地でも仕事が可能となり、仕事と暮らしのバランスを求めるニーズが高まっている
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・移住・定住のニーズの高まり
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・訪日外国人の田舎暮らしのニーズの高まり
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・キャンプや低山ハイキング、サイクリングなどアウトドアの人気の高まり
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・エネルギーの地産地消のニーズの高まり
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・食料の地産地消のニーズの高まり
<input type="checkbox"/>	・比較的災害の少ない地域					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・高速道路ICが市内に4つあり、交通の便が良い
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・首都圏からバス、鉄道、自家用車等を利用し、短時間で来市できる
	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・関東でも有名な観光地がある
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・北関東における交通の要衝
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・高速バスでの首都圏アクセス
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	・サイクルツーリズムの推進
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・若者の地方志向の上昇
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・テレワークの拡大により地方居住の増加
<input type="checkbox"/>	・地方創生に向け国が進める様々な動き					
<input type="checkbox"/>	・平地の日照時間が長い					
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・県産木材使用促進
	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・アウトドア人気
	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・ジビエ料理人気
	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・アウトレットによる関東圏内の集客率の高さ
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・まちなかと中山間地を活かした子育て推進
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	・サテライトオフィスの促進
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	・渡良瀬川、利根川架橋促進気運の向上 (館林、羽生等との連携)
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	・栃木市との観光及び公共交通の連携
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	・消防通信の足利市消防本部との共用
<input type="checkbox"/>	・燃料費高騰による省エネへの関心の高まり					
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・「おいしい水」の販売
	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・自然を生かした観光資源の活用
	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・バイオマス発電の流行

【佐野市に有利な機会 (Opportunity)】 (活用できる機会・成長できる機会)

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
○	○			○	○	・森林環境譲与税の収入
○	○			○	○	・中山間地域の活性化に関する国補助制度の増加
○	○		○	○	○	・全国的に中山間地域に就農、移住希望者が多い
○	○				○	・地域未来投資促進法に基づく重点促進区域の設定
○	○				○	・サテライトオフィス、本社機能の地方移転
○	○	○			○	・DX・GX推進環境の進展
○	○	○			○	・コンパクトシティの推進
	○				○	・大型台風等に対する流域治水対策の進捗
	○			○	○	・バイオマス発電施設の立地
	○		○		○	・太陽光による再生可能エネルギー多い
	○				○	・ペーパーレス会議の積極的な活用
	○	○			○	・コンパクトなまちづくりを推進している
○	○	○	○		○	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行
	○				○	・ふるさと納税額が年々増加し、徐々に本市の知名度が向上
	○		○		○	・電気料金高騰による再生可能エネルギーの自家利用への機運が高まっている
	○		○		○	・健康志向の高まり
○	○	○	○	○	○	・SDG s を始めとした環境に対する社会的関心
	○				○	・アフターコロナのインバウンドの復活
○	○		○		○	・アフターコロナにおいてもテレワークを継続する企業がある
	○		○		○	・地方移住への関心の拡大
	○		○		○	・移住支援制度の規模拡大
	○	○	○		○	・コンパクト・プラス・ネットワークの推進
	○	○	○		○	・地域公共交通の推進
	○	○	○		○	・自転車活用の推進
○	○	○	○	○	○	・DXの推進
○	○	○	○		○	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行
	○				○	・行動制限解除による観光需要の拡大
○	○	○	○	○	○	・ふるさと納税の増加による本市の認知度向上
○	○		○		○	・太陽光発電やLED照明の導入
	○				○	・廃校の有効活用
	○				○	・魅力あるふるさと納税品の選択と配信
	○				○	・移住・定住の促進に向けてさらなる魅力配信
○	○	○	○	○	○	・電気代高騰による省エネ意識の向上
	○		○		○	・コロナ禍をきっかけとする移住機運の高まり
○	○	○	○	○	○	・CO2の削減のイノベーション
○	○	○	○	○	○	・ネガティブエミッション技術の開発
○	○			○	○	・市北部の未利用地の活用
○	○			○	○	・スマート農業の進展
	○	○			○	・近隣(栃木市藤岡町)に水素ステーションがある(燃料電池車が運用しやすい)
	○				○	・県域を越えた連携の土壌がある(両毛地域としてのCN可能性)
○	○	○	○	○	○	・環境・エネルギー産業のマーケット拡大
○	○	○	○	○	○	・ESG投資の拡大

佐野市の現状分析についてのアンケート結果

2-2 外部環境 ②

【佐野市に不利な脅威 (Threat)】 (取り除くべき脅威・守るべき脅威)

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
○	○	○	○	○	○	・車中心の社会構造となっている
					○	・想定外 (過去に経験のない) の気象による災害の発生 (夏の酷暑日の増加も含む)
○	○	○	○	○	○	・東京一極集中のさらなる進行
				○	○	・山を削ってのソーラーパネルの増加
○				○	○	・住友大阪セメントのプラントでは、市外より木質建築廃材を受け入れ同プラントの燃料と していることから、市外からCO2の原料を受け入れ排出していることになる。
				○	○	・森林所有者の認識不足
				○	○	・林業者、農業者の減少
				○	○	・国産材の価格低迷
				○	○	・市内産材の性能の低さ
	○		○	○	○	・不法投棄による環境破壊
			○		○	・外国人増加による相互理解の問題
○	○	○	○	○	○	・災害(線状降水帯による大雨など)の脅威
	○		○		○	・猛暑日の増加
○	○	○	○	○	○	・暑い
○	○		○	○	○	・所有者不明の土地・家屋の増加
○				○	○	・遊休農地・山林の拡大
○					○	・農業従事者の減少
○	○	○	○	○	○	・電気料金の高騰
○	○	○	○	○	○	・気温が高い
	○			○	○	・太陽光発電所が乱立している (森林の伐採がある)
○					○	・鉱物資源の枯渇後の問題
	○		○		○	・搬入土砂の堆積場が山間部にある (土砂崩れの懸念)
	○		○		○	・地下水の汚染 (佐野市の水道水源はすべて地下水)
○	○	○	○	○	○	・自然災害や気候変動による脅威
○	○	○			○	・大手企業の誘致
○	○	○	○	○	○	・集中豪雨による河川氾濫増加
○	○	○	○	○	○	・異常気象による突風の発生増加
○	○	○	○	○	○	・温暖化による落雷の発生増加
○	○	○	○	○	○	・気温上昇による熱中症の危険性増加
○	○	○	○	○	○	・電気料金上昇
○	○	○	○	○	○	・物価上昇、住宅関連購入費の高騰
				○	○	・野生動物による食害
	○			○	○	・太陽光発電による環境破壊の影響
○					○	・農業分野におけるTPPの影響
○	○	○	○	○	○	・気温が他の市町に比べて高すぎる
		○			○	・ダンプ等大型車両の交通量の多さ
	○			○	○	・相変わらず多いソーラー建設要望

【佐野市に不利な脅威 (Threat)】 (取り除くべき脅威・守るべき脅威)

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
	○			○	○	・違法な盛土等をする業者の存在
				○	○	・水源地の外資系購入
○				○	○	・外来種の侵入
○	○	○	○	○	○	・気候変動(暖冬、乾燥、豪雨)
	○		○		○	・空き家問題
○	○	○	○	○	○	・市内人口減少、高齢化問題
	○		○		○	・街灯が少ない
○	○	○	○	○	○	・異常降雨に対応した治山・治水、まちづくり
○	○		○		○	・他の商圈からの取り込みによる商店街の衰退 (他市町に次々と大型ディスカウント店)
	○	○			○	・大型貨物自動車の最高速度100km化による、重大交通事故発生懸念
				○	○	・不在所有者森林の増加
○	○	○	○	○	○	・異常気象による土砂災害、洪水災害のリスク
	○		○		○	・所有者不明の空き家の増加
○	○				○	・耕作放棄地の増加
○	○				○	・老朽化の進んだ水道管の敷設替え
○				○	○	・鳥獣害対策に必要な猟友会会員の高齢化
				○	○	・太陽光発電施設等の開発
				○	○	・急峻な地形が多い
				○	○	・林業被害を与える野生獣 (熊、シカ) の生息数拡大
○				○	○	・遊休農地、林野の拡大
○	○	○	○	○	○	・ゲリラ豪雨の頻発化
○	○	○	○	○	○	・物価の高騰
	○		○		○	・太陽光パネルの寿命による大量廃棄時代の到来
○	○	○	○	○	○	・台風により被災したという負のイメージ
○				○	○	・耕作放棄地等遊休土地の増加
	○			○	○	・山林での太陽光発電設備の乱開発
○	○	○	○	○	○	・人口減少
○	○	○	○	○	○	・地球温暖化による気温上昇
○	○	○	○	○	○	・大型台風が年々増加している
	○		○		○	・中心市街地・地域市街地の空洞化
	○		○		○	・空き家・空き地の増加
○	○	○	○	○	○	・若年層の人口流出
○	○	○	○	○	○	・熱中症の危険性が大きい
○	○	○	○	○	○	・夏の高温
○	○			○	○	・鳥獣害の拡大
○	○	○	○	○	○	・少子高齢化
	○		○		○	・中心市街地の過疎化
	○		○	○	○	・山間部の過疎化
	○			○	○	・ヤマビル生息地の拡大
	○			○	○	・メガソーラーの乱立
○	○	○	○	○	○	・気温の高いまちのイメージ
	○	○	○		○	・公共共通の利便性低下

佐野市の現状分析についてのアンケート結果

3 キーワード抽出

【「ゼロカーボンシティさの」実現に向けたキーワードは？】

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
○	○	○	○	○	○	・再生可能エネルギーの設備開発、利用拡大
○	○	○	○	○	○	・3R運動の推進（リデュース、リユース、リサイクルの徹底）とごみの適正分別の徹底
○	○		○	○	○	・循環型社会の形成（森林資源の有効活用）
	○	○			○	・全公用車のハイブリッド、電気自動車化
	○				○	・公共施設が率先してZEH化を図る
				○	○	・森林整備
○	○	○	○	○	○	・循環型社会の形成
○	○	○	○	○	○	・太陽光発電などの再生可能エネルギーを活用したエネルギーの地産地消
				○	○	・森林の再生・活用
○	○		○		○	・なるべくごみを排出しない社会の仕組みづくり
		○			○	・通勤や通学では出来るだけ公共交通機関を利用（マイカーに頼らない社会を目指す）
				○	○	・今後の担い手である林業新規就労者の確保（人材育成を最優先）
				○	○	・山地特有の再生エネルギー利用（木質バイオマス発電・小規模水力発電など）
	○		○	○	○	・エネルギーの創出
				○	○	・温室効果ガスの吸収
	○		○		○	・受益者負担の原則
	○	○	○		○	・脱クルマ社会
	○			○	○	・景観に配慮した再生可能エネルギーの普及
○	○	○	○	○	○	・日照時間日本一、太陽熱利用拡大
○	○			○	○	・林業拡大で二酸化炭素削減
	○	○	○		○	・自動車依存からの転換
	○	○			○	・公共交通の機能強化
	○		○		○	・地球にやさしい生活へ、市民一人一人の意識の改革
	○	○	○		○	・電気自動車・充電設備不足への対応
○	○	○	○		○	・再生可能エネルギーの利用拡大による電力の地産地消
	○		○	○	○	・循環型社会の形成（森林資源有効活用・3R推進強化など）
○	○		○		○	・環境負荷の少ない生活や事業活動への転換
○	○		○		○	・分野連携・地域住民連携による創エネ促進
	○				○	・佐野市の独自性の発見・発揮
	○			○	○	・地域資源の発掘と有効活用
○	○	○	○	○	○	・気候変動に対応した新規ビジネスの育成・創出
○	○	○	○	○	○	・暑いまち
○	○	○	○	○	○	・市役所が市民や事業者を率先垂範
○	○	○	○	○	○	・脱炭素意識の向上・浸透と行動変容
○	○	○	○	○	○	・環境負荷の少ない日常生活や事業活動への転換
○	○			○	○	・森林の保全と再生可能エネルギーへの活用

佐野市の現状分析についてのアンケート結果

4-1 自由意見

【「ゼロカーボンシティさの」実現に向けた各分野からの意見・考え方】

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	・カーボンニュートラルは、簡単に実現できるものではない。本気で取り組むのか、取り組んでいる振りをするのか。
					<input type="checkbox"/>	・3Rではなく、5R・6R・7Rの推進が必要ではないか。
					<input type="checkbox"/>	・バイオマス発電は、利用資源、資源の供給地、エネルギー効率、熱利用などの総合的な検討が必要。
<input type="checkbox"/>	<p>・カーボンニュートラルの推進には、エネルギー問題の根本的な解決が必要だと考えます。エネルギー資源のほとんどを輸入に頼っている日本では、課題の多い取組であることは間違いありません。</p> <p>そこで、再生可能エネルギーの開発・利用拡大や森林等の整備・保全による二酸化炭素の吸収源拡大等が求められていますが、市としても積極的に取組を進めていく必要があると考えます。</p> <p>しかし、地産できる可能性の高いエネルギー源として考えられる太陽光発電は乱開発による自然の破壊、バイオマス発電は費用対効果の低さが懸念されます。また、多くが私的な財産である針葉樹林の整備等に多額の税金が投入されることにも懸念があります。（市産の木材積極的な活用の推進には、多くの賛同を得られると思います。）</p> <p>将来に向けて、市所有の公用車や路線バスを段階的に全てEVに切り替え、そのエネルギー源を地産した電源を使用することの研究を始める。このような取組が現実的であると思います。</p>					
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<p>・CO2排出抑制の方策はたくさんあり、明確な数値としてとらえられるが、森林の多くが整備されておらず、収量については疑問な部分が多い。</p> <p>森林所有者には、自分がどの森林を相続しているか知らない人が多く、林業の知識のない場合も多いほか、所有者不明の森林も増えている。その結果、適切な間伐や手入れも行われなことから、製材にも適さない人工林が増え、CO2吸収量も減ってしまう。</p> <p>そのため、森林組合と共同で整備不良森林の把握を進め、CO2吸収量の向上に努めるといった、市の独自性を出してはどうか。</p>
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・3R運動を推進しごみの排出量を減らすこと、またごみの適正分別の徹底は、二酸化炭素排出量の削減に繋がる身近で簡単な取組です。
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・森林環境確保のため、適切な管理や開発の抑制など市としてできることを検討していく必要がある。
<input type="checkbox"/>	・どこまでゼロカーボンシティさのを推進するか、費用対効果によらない予算編成の検討など、全庁的な方針が必要である。					
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・本市は、面積の60%が森林であることから、間伐や植林を活性化させ、手付かずだった森林を再整備することで、二酸化炭素の吸収資源を最大限に活用するとともに災害対策や鳥獣害予防対策につながるものと考えます。そのためにも、林業の活性化を図るため、森林を整備し佐野市産材であることを証明する認証制度を活用することで、より市産材の活用を促進し、伐採と植林のサイクルの活性化を図る必要があります。
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・本市の森林面積は、総面積 35,604 ha の約 60%にあたる 21,782 ha と広大であり、うち民有林面積が 20,537ha(森林面積の 94%)、民有林のうち二酸化炭素吸収効果の高いスギやヒノキなどの人工林面積は 12,538 ha、率で 61%と県平均を大きく上回っています。間伐や植林を活性化させ森林を再整備することで、二酸化炭素の吸収資源を最大限に活用することが可能であると考えられます。森林の再整備や、森林資源の循環利用を最大重要事項とし計画を策定することが、ゼロカーボンシティ達成のための有効策であると考えます。
<input type="checkbox"/>	・佐野市民は栃木県民だが、県への帰属意識が低く、両毛地区への愛着や連携が強いと感じる。これをチャンスと捉え、足利・館林・太田・桐生の枠組みで、ゼロカーボンに関する何らかの施策を進めれば、多方面から関心が集まり、地域の活性化にも繋がるのではないかと。					
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・吸収源拡大のため、市内の緑化を図るべき。

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
	○				○	・太陽光発電事業が近年行われているが、施工や配水など杜撰な設備が見受けられる。
				○	○	・大規模な開発により森林が伐採されている。
				○	○	<p>【森林の再生・活用】をキーワードに考える。</p> <p>森林は、樹木が木材になるほか、堆肥やバイオマス発電の原料にもなる。他方、環境面では、若い木ほど温室効果ガス(二酸化炭素)をよく吸収する。また、雨水を蓄え少しずつ地下や河川に出す機能が、特にブナ等の広葉樹林で高い。さらに、様々な生物の生息の場であり、アウトドアレジャーの場となるほか、山菜やキノコ、溪流魚、狩猟対象鳥獣は山の幸である。</p> <p>昨今の気候変動で、一時的・局所的な豪雨がある一方、極端な乾燥もあるため、森林の機能による河川や地下水の水量の安定は、今後より重要になってくる。また、現在市内の森林は、人家近くは主に針葉樹の植林であるが、林道の崩壊や後継者不在で、間伐、伐採、植樹などの管理が不足している。樹木が更新されないことで、二酸化炭素の吸収力も落ち、また林床が暗くなり鳥獣の食糧となる植物が生えにくいことから鳥獣の人里への進出が助長されることにもなる。</p> <p>市のゼロカーボン実現には、現に豊富にある森林を資源として再認識し、木材出荷、間伐材や加工残渣の堆肥化やその発酵熱による発電を行えるラインと拠点を整備することが必要である。同時に伐採跡地には針葉樹だけでなく広葉樹も植樹することで、森林の保水力向上も併せた二酸化炭素の吸収力の向上、鳥獣の食糧確保による人里の被害抑制などを狙う。</p> <p>資金の確保にはクラウドファンディングも活用し、賛同者には特典として奥佐野宿泊プラン、B級グルメと山の幸詰合せ、間伐材加工品などを贈ることとし、事業の趣旨と佐野の魅力を市内外に広く</p>
○	○	○	○	○	○	・カーボンニュートラルの普及によるメリットが不明のため、カーボンニュートラル推進に必要性が認知されていないのではないか。
○	○	○	○	○	○	・自治体で取り組むのは勿論であるが、市民一人ひとりの取組が必要不可欠である。
	○					・伝票に限らず、庁内の稟議事務全般において、電子決裁を導入してほしい。
	○					・協議の際には、資料を大量に印刷する必要があるため、パソコンを小型化し、パソコン持参を日常化するなど、ペーパーレス化を強化してほしい。
	○			○	○	・多くの山林を有する本市においては、近年太陽光発電設備の設置件数が増加。再生可能エネルギーの普及という観点のみならず、設置場所として検討されること多い耕作放棄地や山林等の有効活用につながるのではないかと。ただし、太陽光発電設備の景観へ及ぼす影響が大きいため、市外からの観光客は勿論、市民からの印象も良いものではない。
	○			○	○	・他の自治体では、太陽光パネルに角度を設けたり、目隠しとして植栽を行う等規制を設けている所もある。
	○			○	○	・豊かな自然は市北部の中山間地域の貴重な観光資源であるため、本市を訪れる人からの「見た目」も意識した再生可能エネルギーの普及が望ましい。
	○		○		○	・地球のやさしく、環境に配慮した、という考えが、意識的でなく、一人一人の生活に溶け込んで、あたりまえになるようであれば、ゼロカーボンシティの実現にはつながらないと思う。省エネ家電やLED照明の導入など、実際のどのくらいの省エネにつながるのか、地道だが、生活に身近なものから理解を促す取組から始める必要があると思う。
○					○	・産業振興の推進を図る中で、カーボンニュートラルの推進も図るのはなかなか難しい。ゼロカーボンに向けて、他自治体などが実施している補助金等の取組を参考にした検討が必要。
	○	○			○	・電気自動車・充電設備が不足している。

佐野市の現状分析についてのアンケート結果

4-2自由提案

【「ゼロカーボンシティさの」実現に向けた各分野からの提案】

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
	○				○	・延長窓口、さのまるワークをやめる（電力利用などの削減）。
	○				○	・時間外勤務をせずに済むようDXを推進し、原則として禁止する（電力利用などの削減）。
	○	○			○	・公用車駐車場に太陽光発電・充電設備を設置し、すべてクリーンエネルギーでまかなう。
					○	・施設を新設する際は、太陽光などの設置を必須にする。
○	○	○	○	○	○	・既存の施設も可能なもの（建物、土地）は、太陽光を設置する。
	○				○	・活用していない公有地に、太陽光を設置する（貸すことも含む）。
					○	・上下水道施設に、小水力を設置する。
		○			○	・路線バスやデマンドバスは、電気・水素にする。
			○		○	・公共交通利用の推奨
	○		○	○	○	・脱プラスチック（木、竹、葦などの利用）を推奨し、プラスチック製のストロー、スプーン、フォークなどの有料化を検討する。
					○	・可燃ごみを有料化する。
			○	○	○	・木造建築を推奨する。
○	○	○	○	○	○	・スマートーフシティを推進し、すべての手続きを来庁せず、紙を使わずに行えるようにする。
	○					・庁内の会議や打ち合わせをすべてペーパーレス化する。
	○	○			○	・公用車、公共バスで観光施設を巡回する。
○	○	○	○	○	○	・カーボンリサイクルでCO ₂ を資源にする。 （例）CO ₂ からメタノールへ、CO ₂ w p 吸収するコンクリートの利用 など
				○	○	・森林組合と共同で整備不良森林の把握を進め、CO ₂ 吸収量の向上に努めるといった、市の独自性を出してはどうか。
				○	○	・森林環境確保のため、適切な管理や開発の抑制など市としてできることを検討していく。
	○	○	○		○	・シェアサイクル、シェア電動キックボード事業を推進する。
○	○	○			○	・重油等使用設備の燃料転換（電化・ガス化）を図る。
○	○		○		○	・照明設備をLEDに更新する。
	○	○			○	・公用車のZEV化を実施する。
○	○		○		○	・太陽光など再生可能エネルギーの導入を促進する。

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
	○			○	○	・ペーパーレス化の推進を図る。
				○	○	・緑化することに対して補助金の支出や、緑化するための苗木や種の配布を行ったらどうか。
	○			○	○	・小規模は太陽光事業は申請程度の簡易な審査が開発がされてしまっている。もっと厳しい審査をクリアしてから開発できるような仕組みにしてほしい。
	○		○	○	○	・市指定のエコバックを作成し各家庭に配布。そのエコバックを使用するとさらに何円引き、といったような特典を付けて、市民が少しでも多くエコバックを使用することで、プラスチックごみの削減を図る。
○	○	○	○	○	○	・佐野市民は栃木県民だが、県への帰属意識が低く、両毛地区への愛着や連携が強いと感じる。これをチャンスと捉え、足利・館林・太田・桐生の枠組みで、ゼロカーボンに関する何らかの施策を進めれば、多方面から関心が集まり、地域の活性化にも繋がるのではないか。
				○	○	・森林資源と木材利用をつなぐ木材産業の創出
			○	○	○	・森林資源の循環利用のための市産材活用の補助制度
			○	○	○	・高断熱住宅の購入及びリフォームに係る費用の市独自の上乗せ補助
			○	○	○	・個人住宅の植栽やグリーンカーテンにかかる費用の補助
○	○	○	○		○	・電気自動車購入補助制度の創設
		○	○		○	・電動キックボード購入者に対し、補助金を交付する。
	○	○			○	・市公用車の電気自動車導入を推進
	○			○	○	・都市公園等の都市部における自然エネルギーを活用した循環型トイレの導入
	○	○			○	・環境に優しい車を導入する。
	○	○	○		○	・市役所駐車場や公共施設を中心として、急速充電器(国内主流のCHAdeMO式ではなく、世界的に主流になっているテスラ式急速充電器)を設置し、電気自動車を普及させる。
	○			○	○	・夏の冷房使用を減らすため、山間部に避暑スポットを作る。
	○	○			○	・太陽光発電や電気自動車対応の蓄電池、災害対策機能を備えた公園の整備
				○	○	・間伐材の有効利用法を確立することで、森林の手入れがしやすくなり、循環型社会の一旦を担えるようになると思う。(山間部にチップ工場や木質バイオマス発電施設等を誘致して運搬距離を短くし、間伐作業を実施しやすくする。)
	○			○	○	・下水の熱エネルギーの利用(地域冷暖房システムの導入)
	○				○	・下水汚泥の燃料化(有効利用)
	○				○	・下水処理水の再利用
	○		○		○	・雨水の貯留、再利用の促進(個人宅・民間会社への補助、公共施設への義務化)
	○		○		○	・通勤・通学時の移動手段を、自転車や電動バイクにするよう補助金を出す
	○				○	・公共下水道(汚水)の新設をやめる

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	・バイオマス発電所の建設（生ごみ、下水汚泥、間伐材などの有効利用）
<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		・職員用送迎バスの運行（駅前周辺の企業と連携も）
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		・電動キックボードの積極的普及
<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		・夏場の勤務中のハーフパンツ着用を推奨する。
<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		・冬場の勤務中の防寒着（マフラー、手袋、ニット帽など）着用を推奨する。
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		・ウォーターサーバーを設置し、マイボトルへの給水を可能にする。
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		・ペットボトル利用を禁止する。（特に500ml以下について）
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		・薪ストーブの積極的普及
<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		・週休三日制の導入
<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		・時間外勤務（残業）を禁止する（職員、社員、従業員を増員する）
<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		・冬季に吹く強い西風を活用した風力発電設備の設置に対して補助金を交付し、風力エネルギーの活用を促進する。
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		・坂が少ないため自転車に乗りやすいため、行動の一部を自動車から自転車にシフトすることでCO ₂ 排出削減と健康増進を図る。
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		・市内の事業所のトップランナーとして、市役所の自転車通勤者の通勤手当を増額する。
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		・公用車は更新時にガソリン車を電気自動車に切り替え、CO ₂ 排出削減を図る。
<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		・公共施設の証明のLED化を促進する。
<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		・時間外勤務時間の削減
<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		・市役所屋上緑化
<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		・駅南イルミネーションに太陽光発電を利用する。
<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		・旧足利銀行佐野支店跡地を涼み処として整備（民間活力を活用して）
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		・職員の車通勤を原則禁止し、公共交通または自転車通勤を促進
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		・市内の事業所・工場にCO ₂ 排出量の規制を設ける。
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		・ごみの仕分けを細分化し、資源として活用できるものを増やすことを安価でできるようにする。
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		・森林資源を有効活用する。（太陽光発電に変わることなく）
<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		・窓口や業務のデジタル化推進（職員も市民も市役所に行かない来ないで済むように）
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		・公用移動手段の改革（徒歩、自転車、電動キックボード、電動バイクの導入）
<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		・グリーン電力への切り替え（市内で発電し、その電力を購入）

産 業	業 務	運 輸	家 庭	吸 収	他	主な意見
	○			○	○	・市有施設の木造化（建替の際は100%木造とする。可能なら佐野市産材）
	○				○	・19時30分に消灯（残業している部署のみ自分で電気をつける）
	○			○	○	・小規模水力発電や小規模バイオマスボイラーの推進（導入補助?）
	○		○		○	・ゴミ袋を有料化し、そのお金をゼロカーボンの財源へ
	○		○	○	○	・木製家具、剪定枝等を回収の推進とチップ化
	○	○			○	・公共交通を利用した出張の促進により公用車使用を縮小し、公共交通の利用促進を図り、公共交通の利用者増による利便性の強化並びにゼロカーボンシティの推進
	○	○			○	・交通結節点の機能強化により、公共交通の充実を図り自動車依存からの転換
	○	○			○	・通勤可能な職員の徒歩や自転車通勤への取組促進
	○			○	○	・庁内会議等での完全ペーパーレス化への取組強化
○	○				○	・他自治体を実施している補助金を参考に、事業者支援の検討が必要。 「大熊町ゼロカーボン推進補助金」「KOBエゼロカーボン支援補助金」「備前市ゼロ・カーボンシティ促進補助金」「豊田市カーボンニュートラル創エネ促進補助金」「軽米町ゼロカーボン推進事業費補助金」「仙台市事業所用太陽光発電システム導入支援補助金」「仙台市温室効果ガス削減設備導入支援補助金」「仙台市創エネルギー導入促進助成制度」「仙台市低炭素型ボイラー転換補助金」など
	○		○		○	・超小型バイオガспラントの設置による廃棄物（食品残渣・廃棄野菜等）発電導入
	○		○		○	・市内のバスについて、市職員や県職員向けの通勤用ダイヤの編成(自家用車の減)
	○				○	・週休3日制による事務所電力削減
○	○				○	・条例により小売店や事業所の営業時間強制短縮日設定による、夜間照明などの電力減(景観保護にも伝播)
	○			○	○	・宮城県を倣って、山間部の太陽光パネル課税(建築物への誘導)導入
	○				○	・軽四輪内燃機関車(ハイブリッド含む)への軽自動車税率増による、電気自動車普及へ誘導(電気、二輪車はそのまま)
	○		○		○	・防犯灯の21時以降の消灯
	○				○	・久保町職員駐車場にPPA方式による車庫型太陽光パネル設置(道の駅どまんなかたぬまのイメージ)と公用車充電設備の設置
	○				○	・公用車に電動キックボード、原付、電動アシスト自転車の活用
	○				○	・市内循環バスへの環境に優しい(EV・PHV・FCV)の全台導入
	○		○		○	・クーリングシェアやクーリングシェルターの拡大により、電気代を節約しながら熱中症の予防対策を実施する。
	○	○			○	・市の玄関口としての新都市バスターミナルにおいてJRバス関東と連携したPPA導入を図ることで、電力の地産地消を内外へのPRする。